

# 1-12 燃料電池自動車導入推進事業

## 事業目的

FCVの貸出や試乗会の開催によってFCVの認知度を高め、加えてカーレンタルの導入によってFCVの県民利用機会の拡大を図るとともに、導入助成を行う。さらに、FCバスのイベント運行によって水素エネルギーの有用性等の普及啓発を進める。

## 事業効果

CO<sub>2</sub>年削減効果(H29)

15.7t-CO<sub>2</sub>※

※ 二酸化炭素の削減効果はスマート水素ステーションから公用車(5台)へ水素を充填すると想定した場合の削減量

## 事業内容

- 平成29年度事業費 40,641千円(うちみやぎ環境税充当額 40,641千円)
- 事業概要
  - FCV導入促進補助事業  
県民・法人等のFCV等導入に係る経費の一部を補助するもの。  
[補助内容の例] FCV 国補助額の1/2を補助(MIRAIの場合上限101万円)
  - FCV公用車による普及啓発事業  
県民のFCV認知度の向上やFCV利用機会の拡大のため、公用車として導入するFCVを活用して、各種イベントでの展示、試乗会の実施、貸出等を行うもの。
  - FCバス導入推進事業  
水素エネルギーに関する更なる認知度向上に向け、県内でのFCバスの試験運行を実施するもの。
  - FCVカーレンタル導入実証事業  
県民のFCV利用機会の拡大のため、FCVによる有料貸出事業を実証的に実施するもの。

## FCV補助を適用した場合の購入額負担

(単位:万円)

国	県	本人負担
202	101	420.6

※上記の額はトヨタMIRAI(税込723.6万円)の場合

## FCVの特徴

①走行時に排出するのは水だけで、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や有害な大気汚染物質を排出しない。

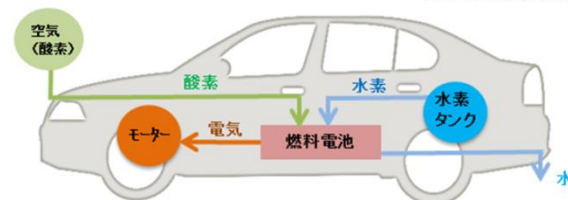
②モーターによって走行するため音が静かで、加速もスムーズ。

③長距離走行が可能で、燃料充填時間も3分程度とガソリン車並の使い勝手。

④自動車から大容量の電気を外部に供給することが可能で、非常電源としても活用可能。

## FCVの仕組み

※車種によって、構造は異なります



トヨタ自動車 MIRAI



本田技研工業  
CLARITY FUEL CELL



トヨタ FCバス